

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	672600210
法人名	医療法人社団 緑愛会
事業所名	グループホーム 新緑の丘
訪問調査日	平成 20 年 10 月 14 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	672600210
法人名	医療法人社団 緑愛会
事業所名	グループホーム 新緑の丘
所在地 (電話番号)	山形県東置賜郡川西町大字下奥田字穴沢平3796-65 (電話) 0238-54-0081

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年10月14日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 22 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤	人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費18,000円他実費
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 88.83 歳	最低	80 歳	最高	106 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川西湖山病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「歩んできた人生を大切に、自分らしさを尊重し、住み慣れた地域の中で安心して過ごせること」を目指して、利用者一人ひとりの生活環境と人生観を大切にしながら、充実した毎日が送られるための生活支援に取り組んでいます。また、同じ法人が運営している介護老人保健施設や医療機関とも連携を図ることにより、利用者はもちろんのこと、利用者の家族にも安心感を提供できる体制が整えられています。さらに、利用者を含み込むような管理者と職員の思いやりと優しさで、このホームが「安心できるもうひとつのわが家」となれるよう、支え、見守り続けているようです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) グループホーム連絡協議会等で行われている勉強会や事例発表会への参加、交換研修の受け入れ等が行われており、同業者との交流を通じたサービスの質の向上に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 「ユニットリーダーが全体を把握しているため、ユニットリーダーに聞けばわかる」という考えから、管理者とユニットリーダーが自己評価に携わり、他の職員には「管理者とユニットリーダーがわからない部分の聞き取り」と「できあがった自己評価の配布」のみを行い、評価項目一つひとつを職員全員で点検していく過程は設けられていない。評価は一連の過程を職員全員で取り組むことで、職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能となり、また、職員が全員で取り組むことで実施した際に最大の効果をもたらすことができるため、項目一つひとつを職員全員で点検していく過程を設ける取り組みが期待される。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3か月に1度の頻度で開催されており、活動内容、利用状況、避難訓練等の報告が行われ、サービスの向上にも繋がられている。また、会議の議事録は利用者の家族にも送付されている。
	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年1回の利用者・家族アンケートの実施、また、玄関へのアンケートボックス設置があり、把握された家族の意見、要望、課題について、職員間で話し合いサービスの向上に役立てている。
	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会入会はまだ行われてはいないものの、ボランティアの受け入れと交流の機会が増え、近所の人々が差し入れを持ってきてくれたりしている。また、ホーム行事の広報、地域行事への参加、公共機関の利用を増やすことにより、今後さらに交流を深めていきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人共通の理念に「利用者の歩んできた人生を大切に、地域の中で安心して生活していく」を加えたホーム独自の理念が作り上げられている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	サービスの向上を目的とした独自の委員会(安全、行事・広報、湖山ケア)の開催また、全体会議やユニット会議の場でも理念を共有し、サービスの質の向上に繋げている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会入会はまだ行われてはいないものの、ボランティアの受け入れと交流の機会が増え、近所の人々が差し入れを持ってきてくれたりしている。また、ホーム行事の広報、地域行事への参加、公共機関の利用を増やすことにより、今後さらに交流を深めていきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「ユニットリーダーが全体を把握しているため、ユニットリーダーに聞けばわかる」という考えから、管理者とユニットリーダーが自己評価に携わり、他の職員には「管理者とユニットリーダーがわからない部分の聞き取り」と「できあがった自己評価の配布」のみ行い、評価項目一つひとつを職員全員で点検していく過程は設けられていない。	○	評価は一連の過程を職員全員で取り組むことで、職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能となり、また、職員が全員で取り組むことで実施した際に最大の効果をもたらすことができるため、項目一つひとつを職員全員で点検していく過程を設ける取り組みが期待される。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月に1度の頻度で開催されており、活動内容、利用状況、避難訓練等の報告が行われ、サービスの向上にも繋がられている。また、会議の議事録は利用者の家族にも送付されている。		

山形県 グループホーム新緑の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>利用者の状況や空室状況の報告、感染症対策や冷凍食品などについての情報共有など、連絡の機会を多く設けることにより、市町村との連携を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態は電話や面会時連絡されており、ホーム便りも毎月家族に送られている。また、金銭管理の状況は、家族によって月1回確認されている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1回の利用者・家族アンケートの実施、また、玄関にはアンケートボックス設置があり、把握された家族の意見、要望、課題について、職員間で話し合いサービスの向上に役立てている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新任職員に対しては、利用者支援がスムーズに行えるように時間を設けた研修が行われている。また、職員異動があった場合でも、利用者には不安や動揺が生じないよう、職員が利用者へ寄り添う支援を心がけている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内のグループホームと協力しながら、職員それぞれの段階に応じた研修に参加できている。認知症研修などの外部の研修にも積極的に参加されている。また、研修内容の報告や閲覧にも取り組まれている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会等で行われている勉強会や事例発表会への参加、交換研修の受け入れ等が行われており、同業者との交流を通じたサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

山形県 グループホーム新緑の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりが「人生の先輩」であるということを忘れないよう注意を払いながら、縫い物、食事の支度、掃除などを職員と利用者が一緒に行っており、共に過ごし支えあう関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「今までの生活の継続」という点を意識しながら、日ごろの関わりや会話の中から、一人ひとりの思いや意向を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を開き、職員、家族、利用者それぞれの思いや意見を取り入れながら、介護計画書が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の点検・確認・見直しが行われており、利用者の状況に即した介護計画書が作成されている。		

山形県 グループホーム新緑の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	協力医療機関やかかりつけ医への受診支援が職員と 家族によって行われており、受診の際には日常の様子 や身体状況の報告もなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合の方針については、サービス利用開始 時に家族に確認しており、家族やかかりつけ医とも話し 合いながら、情報や方針が共有できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者が不快になったり、自尊心が傷つけられたりす ることがないよう職員は日頃から注意しており、また、介 護記録は利用者の前では記載しないように心がけてい る。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、利用者 中心の生活ができるように支援されている。また、利用 者から出された要望に応える形で、お墓参りに出かけ たこともある。		

山形県 グループホーム新緑の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものをその都度聞きながら献立を作るようにしており、できるだけ季節の材料を使うことによって、食事がより楽しくなるようにしている。また、利用者の状態に配慮しながら、食事の支度や片付けは職員と利用者が一緒に行うようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	「ゆず湯」や「菖蒲湯」の日を設けたり、近くの浴場に出かけたりしながら、入浴が楽しみになるように工夫している。また、入浴の声掛けは毎日行われており、利用者の気分や状態に合わせて入浴することができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「洗濯たたみ」「畑仕事」などを利用者からしてもらうことにより、生活の中で役割を持ち、張りのある日々を送ることができている。また、歌ったり、身体を動かすことを取り入れた気晴らしの支援も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、利用者一人ひとりの要望に添った支援がなされている。また、外出が困難な方でも、テラスに出てお茶を楽しんだり、外気浴ができるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	テラス、玄関、ユニット間の移動が自由にできるようになっており、日中は玄関に鍵を掛けていない。また、職員は安全に配慮しながら、見守りや声掛けを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の方や消防署の協力を得ながら、年2回の災害訓練が行われている。また、救命急救講習を職員全員が年1回受けている。		

山形県 グループホーム新緑の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて、オカズ等は刻んだり、代替食を用意したりしている。また、水分と食事の摂取量は、利用者ごとに表に記入して把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居間は広く、大きなソファが用意されているため、利用者がゆっくりと休めるようになっている。また、所々に季節の飾りや観葉植物が違和感なく配されており、落ち着いて生活できるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、仏壇、昔作ったぬいぐるみ、写真等が持ち込まれた、居心地のよい居室となっている。		